

令和4年度 第2回 藤沢市立善行学校 学校運営協議会会議録

開催日時 2022年7月5日（火）10時～12時

場 所 善行中学校 図書室

出席委員	<p>亀谷 亀雄（会長・善行地区自治会連合会副会長） 高森 保明（副会長・校長） 植木 春雄（善行地区自治会連合会） 齊藤 正枝（善行三者ふれあいネットワーク会長・善行地区青少年育成協力会会長） 木村 徹（善行市民センター センター長・善行公民館 館長） 松本 美由紀（社会福祉協議会（CSW）） 諏訪 理恵（善行中学校PTA会長） 人見 甲子郎（NPO 法人森の仔じゅうがっこう事務局長） 山田 大（教頭） 高塚 朝未（生徒支援担当教諭）</p>
次第	<p>1. 学校運営や生徒を取り巻く現状、課題についての協議</p>
協議内容	<p><校長> 学校では、感染防止対策を施しながら様々な行事を行えるようになってきた。地域の温かいご支援のおかげで、子どもたちは素直に育っている。一方で困り感を抱えている生徒や不登校など、個別のサポートの必要なケースも多様化してきている。学校としては、生徒の「自己肯定感」を育む取り組みを、授業や行事などの学校活動を通して行っているが、地域としてどのような取り組みが考えられるかご意見を伺いたい。</p> <p><人見委員> 昨年度の学校評価のまとめで、「困っているときに相談できる先生がいる」の回答が低い。行事など学習以外の場面で自己肯定感を高める場はあるのか？管理職以外の職員は外部機関との連携について知識を持っているのか？</p> <p><校長> 教員は休み時間にも生徒の様子を注意深く観察し、積極的な関わりを心がけている。相談機関との連携は、組織的に取り組んでいる。また、相談・連携した記録は全職員で共有している。</p> <p><人見委員> 中学生は思春期でもあり、学習等で難しさがある。相談会のような行事を市民センターをお借りして学校運営協議会で行うことも考えられる。</p> <p><植木委員> 支援が必要なケースとして、その詳しい状況を地域で共有しても構わないか？</p>

<校長>

個別の状況については、ここで申し上げることはできない。あくまでも、「自己肯定感」を育む活動をお考えいただければ。

<松本委員>

市内の状況として、CSW には個々の困りごとや相談が入ってくる。経済的な課題や長年の生育に関わる相談が多い。家庭の問題や引きこもり、いじめ、性犯罪被害など、困りごとを抱えている人たちが社会から取り残されている。市内では、南部より北部の相談が多い。

<木村委員>

それぞれの専門性・持ち味を生かして取り組むのは良いこと。困り感を抱えている人々の課題解決に向けて、地域で大局的に取り組まなければならない。話せる場所、環境というキーワードは一つのヒントになる。センターとしても様々な取り組みを情報発信して、地域のコミュニティを高めて地域の安心感を高めていきたい。

<諏訪委員>

悩みを抱えている生徒が学校に通いやすい環境を整えて欲しい。SC の来校回数の増加、学校教育相談センターや相談機関の周知を徹底し、相談できる場所や機会を整備して欲しい。思春期外来というものもあることを調べて知った。親も含めて相談機関がいろいろあるという知識を持つことも必要。

<齊藤委員>

青少協としては悩みを抱えている人に、まずは一歩外に出るきっかけ作りのお手伝いをしたい。他校でのコミスクの取り組みを参考にできるのではないかな。

<高塚委員>

生徒に関わるそれぞれの機関が情報交換をすることで、生徒理解が深まった。また、今回の協議の中で「話せる環境作り」については大変勉強になった。これから生徒の話を今まで以上によく聞くように努めていきたい。

<会長>

次回もこのテーマ「不登校」を取り巻く課題について協議を深めていきたいと思えます。

次回開催日程 2022年 9月13日(火) 10時～
場所 善行中学校 図書室